

対談

## 詩歌のことば・絵本の言葉 ～「詩」ってなあに？～



石津ちひろ × 松村由利子 司会 奥山 恵（編集部）

2022/11/28 於：日本児童文学者協会 事務局

詩歌を作り始めた頃

——現在、本誌では、創作欄に、物語だけでなく、詩や短歌や俳句など、いろいろな韻文作品を載せていくようにしています。松村さんには、二〇二一年の新年号「創作特集 デイスタンス」に短歌を、石津さんには、昨年の七・八月号の「ホラー」特集のときに、詩を書いていただいています。今号は、詩集・歌集という枠をこえて、詩歌の言葉が遍く広がっているというところを捉えたいなと思いついて、詩人、歌人として活躍であると同時に、絵本や翻訳なども手がけられているお二人に来ていただきました。まず、自己紹介的に、詩や短歌をいつから作り始めたか、どんなふう書いて来たかについて、お話しいただけますか。

石津 私は、小学生の頃から詩には親しんできましたし、教科書でも自然に詩は覚えてしまいうタイプではありましたが、中二のときに、一か月くらい入院したことがあったんです。そのとき、おばが新川和江編の詩集（世界の名詩集）を手渡してくれ、病院でたったひとりだから、とことん読み込んで、それがとても楽しくて、一か月まるまる詩に浸ったという